

私たちは児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、豊かな心を取りもどすため総力をあげて「手書き文字の振興」に取り組んでいます。

「伝統と創意」

広報紙

書くよろこび

第4号



美しい心は 手書き文字から

- 一、日本の伝統文化芸術を守り育もう
- 一、すばらしい日本語の心を伝えよう
- 一、心を映す文字をより大切にしよう
- 一、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう
- 一、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう

寄稿

文部科学省
初等中等教育局長

金森 越哉 氏



情報化が進展する今日、文字は印字されることが多くなりました。しかし、時代の変化の中にあっても、手紙など手書き文字を好んで書く方も多くみられます。これは、温かさや心の豊かさ、美しさを伝える手書き文字のよさを表していると思います。

中学校では、これをさらに発展させ、毛筆を使用して書く場合には、目的や必要に応じて、楷書や行書の特徴を踏まえ、書体を選択して書くことができるようになることを求めています。

また、文字を正しく整えて書く能力を身に付けるためには、特に毛筆を使用した書写の指導が重要です。こうした学校教育での取り組みと並行して、社団法人日本書芸院が行う文字に親しむイベント「手書き文字ばんざい！」や書道展の開催、広報紙の発行等の取り組みは大変意義深いものであり、我が国および伝統と文化を継承し発展させる上で、大きな役割を果たすものです。

書を愛好する 心情を育てたい

新しい学習指導要領においては小・中学校の国語科書写の内容の改善を図っています。

例えば、小学校では、「目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かしてお世話になった人にお礼の気持ちを伝えるために丁寧に整った文字で書くことなど、生活における様々な場面に応じた書き方ができるようにすることを求めています。

「手書き文字にこそ魂が宿る」という信念を基に、社団法人日本書芸院が、今後とも、書の楽しさ、すばらしさを発信し、より多くの人々が書道に親しみ、「書くよろこび」を次の世代に引き継がれることを大いに期待しております。

文字・活字文化振興法の骨子

【目的】
文字・活字文化の振興策を推進し、知的で心豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。

【基本理念】
国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵みを受ける環境を整備する。国語が日本文化の基盤であることを認識する。

【国際交流】
文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

【地域での振興】
市町村は公立図書館を設置する。

【文・活字文化の日】
国民の関心と理解を深めるため、十月二十七日を文字・活字文化の日とする。

書道教育特区

背筋ピン 集中力高まる

平成17年、静岡県伊東市が「書道教育特区」に認定され、小学校1・2年生から書道を学ぶ画期的な取り組みが始まった。続いて沖縄県那覇市などが「特区」の認定を受けるなど、書道教育は今、注目を集める。現在は制度の変更で、特区の名称はなくなったが、伊東市立南小学校は新たに「教育課程特例校」としてスタート。那覇市立天妃小学校も「学校の特色ある取り組み」として書道に熱を入れる。子どもたちが筆を持つことによって「姿勢がよくなった」「集中力が高まった」と教育的な効果も評価され、全国的な広がりが見込まれる。

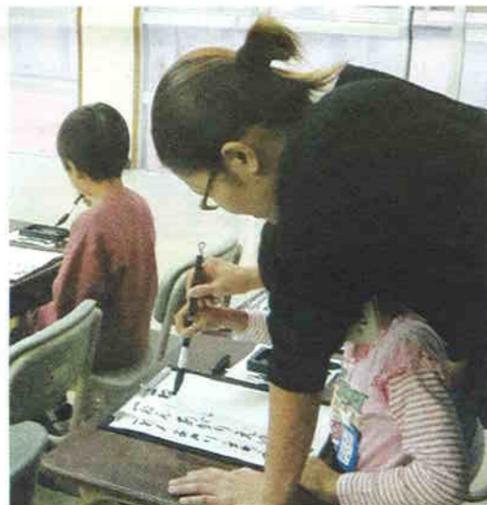


沖縄・那覇市立天妃小学校

書の文化 根づく沖縄

創立120周年を迎えた天妃小学校は「特区」で根付き始めた書道教育を続けようと、現在も1年生が年間15時間、2年生が20時間の授業に取り組んでいる。3年生に進級した「特区時代の2年生」にも、授業の枠を広げるなど、書道教育を「学校の特色ある取り組み」として位置づけている。

同小の近くに書家・茅原南龍さんが主宰する「茅原書藝会」があり、門下生たちが、ボランティアで児童に書道を教えていたのがきっかけだった。さらに、沖縄は15世紀から19世紀まで、中国と深い交流があり、日中両国の「書文化」が根



教育特区とは

政府の構造改革の一環として、地方自治体や民間企業によるアイデアを取り入れ、地域限定で特例を認めた。書道教育の特区は1、2年生の教育課程に「書道科」を設けた。伊東市、静岡県長泉町、那覇市が認定された。

ほかの教育特区としては、兵庫県尼崎市の「そろばん特区」、東京都世田谷区の「日本語特区」、群馬県太田市の「外国語教育特区」、奈良市の「世界遺産に学び、ともに歩むまち一なら 小中一貫教育特区」などがあり、特区は100件を超えた。

付いていることなども、書道熱を支える原動力だ。

1年生の授業はユニークだ。まず、「よろしくお願ひします」というあいさつから始まる。その後、正しい姿勢を習う。「グー」「ペタ」「ピン」「シュワッチ、シュワッチ」だ。

「グー」でイスと背中にゲンコツ一つ入るすき間を開ける。「ペタ」は両足をぺたっと床に付ける。「ピン」で背中をまっすぐに伸ばす。「シュワッチ、シュワッチ」はウルトラマンのポーズで、両手をクロスさせてあげた後、片方ずつ引いて、最後に両手をひざに置く。簡単なようだが、子どもたちの背中がピンと伸びるから不思議だ。

ボランティアの先生たちが4人で、1クラスを教える。4人もいるので、筆の持ち方の指導などもきめ細やかだ。この後、目をつぶって黙想。心を落ち着かせて、集中力が高まったところで、「書」に挑む。

1年生は「一」から「十」までの漢数字や「よ」「て」など特徴のあるひらがなを学ぶ。書道師範の資格を持つボランティアの下地麗泉さんは「子どもたちの目が輝いている」と話す。

そして、子どもたちの作品は、地元の新聞社などが主催するコンクールにも出品され、書くよろこびにもつながっているという。

与那覇律子校長は「書道界で実績のある先生方がボランティアで教えてくれるのがありがたい。地域の交流にもなっている」と喜んでいる。

◆ 那覇市教育委員会は伊東市が「書道教育特区」に認定されたのを受け、平成18年に伊東市立南小学校を視察。2年後に那覇市が「特区」に認定された。

いきいきと筆走らせる

日本書芸院一科審査員
読売書法会 理事

中村泉抄さん



自宅のパソコンで、静岡県
県伊東市の
「書道教育特

区」を知った日から5年の

歳月が経ちます。すぐに、

記事をプリントアウトし

て、茅原南龍先生にお伝え

してから、火が着きました。

早くも実現化への運びとな

り、那覇市の天妃小学校が

その幸運をつかみました。

スタートするに当たり、

2年目を迎え、非常に手ごたえを感じています。担当の先生方と互いの時間をさき指導計画を立て、当方のアドバイスも真摯に受け入れて下さり、共に工夫する喜びが得られます。

教室では低学年ながら想像以上の反応を見せ、理解力の高さを感ぜさせられます。又、中でも特筆すべきは授業を放棄していたような子どもが書に「喜び」を見出し書道教室へ入るや筆



幼い頃、茅原南龍先生の一本の線に魅せられ、書の世界の楽しさを教えていただいた私が、天妃小学校の活動に加えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。

このような活動ができることの喜び、まず感じたことは「子どもは素直で想像力豊か、きらきらした宝石

子どもは想像力豊か

日本書芸院一科審査員
読売書法会 評議員

下地麗泉さん



原南龍先生の一本の線に魅せられ、書の世界の楽しさを

教えていただいた私が、天妃小学校の活動に加えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。

このような活動ができることの喜び、まず感じたことは「子どもは素直で想像力豊か、きらきらした宝石

折、子どもにも前に出て書かせ、緊張感を与えています。そして、よい所を探して、うんとほめてあげます。

ボランティア同士で「私たちの時にも、こんな授業があったら良かったのにね。プロが来て、教えてもらっている。この子は何と幸せなんだろう」と話すことがあります。

用具の準備や管理、後かたづけ、担任の先生との打ち合わせなど、時間はかかりますが、書が好きだから自分も楽しんで

います。

指導日の前日から少し緊張し、いろいろ考えます。プロとして自分が持っているものを分けてあげられる。愛情を尽くしてあげられる喜びを毎週、味わっています。

この中から将来、書家になる子が出て欲しいと願っています。

線を見てイメージを膨らませ、いろんな発想をする子どもたちはとても柔軟です。良く聞いて理解を示してくれます。そんな素直さに私たちが教えられること

もありです。

は大変なもので、改めて、書の手づかみ、多面性を感じています。地域、学校が一体となり

折ることができません」の返事がありました。また、「筆をきれいに洗う」ことでも、「筆が痛い、痛い」など、子どもの発想は豊かです。

そして、活動を通じ、お互いの作品をみて高めあい、協力して作品を作る姿も微笑ましく思います。

指導をしていく中で難しいと感じる点は、子どもたちへ伝える言葉の難しさです。普段日常の中で使う言葉を、初めて聞く子どもにどのように伝えたら理解しやすいのか、考えながらの授業ですが、教室の指導の際に役立つことばかりです。

私たちがこのような活動ができるのも、学校側の理解があり、常に連携いただけるからだと思います。課題に向けてどのようにしたら取り組みやすいのか話し合うだけでなく、児童に課題があれば話し合いをし、書を通じ、一つでも良いことを探し出せば児童の自信につながると思います。

最後になりますが、幼い頃、書と出逢い、この道で生きることを目標とし続けて20年。今度は私が書を志す子どもたちを一人でも見つけ、育て導くことのできる人になりたいと思います。

書の持つ力肌で感じる

教えることは学ぶこと

日本書芸院一科審査員
読売書法会 幹事

真喜屋華泉さん



低学年からの毛筆授業は順調に展開し、子どもたちの目が輝いています。

私たちボランティアの指導員はまず、心を大切にしています。文字を大切にす

る心。物を大切にす

る心。物を大切にす

る心。物を大切にす

る心。物を大切にす

素直に聴く心。正しく見る心。丁寧に書く心。感謝の心。それらの心をどう伝えるか。いつも試行錯誤を繰り返しながら、情操豊かな心優しい子に成長して欲しいと願っています。

何回も何回も書ける忍耐と集中力への誘い方。良い姿勢の合言葉、「おなかと背中」にグー一つ。足はペタペタ。背中中はピンツ……。これを毎回、反復して良い姿

勢を心身に染めています。私が1年生だった頃、担任の先生は板書がとてもきれいでした。字への関心はきつとその時に芽生えたのだろうと思います。字への関心を高め、習字大好きな子どもたちをたくさん育てたいと思っています。

授業では、水書き習字板を黒板に立てて、筆の入りや送筆、終筆と示範し、またモニターを使って実際に半紙に書いているところを拡大画面で見せます。次に子どもたちが書きます。時

間、子どもにも前に出て書かせ、緊張感を与えています。そして、よい所を探して、うんとほめてあげます。

ボランティア同士で「私たちの時にも、こんな授業があったら良かったのにね。プロが来て、教えてもらっている。この子は何と幸せなんだろう」と話すことがあります。

用具の準備や管理、後かたづけ、担任の先生との打ち合わせなど、時間はかかりますが、書が好きだから自分も楽しんで

います。

指導日の前日から少し緊張し、いろいろ考えます。プロとして自分が持っているものを分けてあげられる。愛情を尽くしてあげられる喜びを毎週、味わっています。

この中から将来、書家になる子が出て欲しいと願っています。

線を見てイメージを膨らませ、いろんな発想をする子どもたちはとても柔軟です。良く聞いて理解を示してくれます。そんな素直さに私たちが教えられること

もありです。

折ることができません」の返事がありました。また、「筆をきれいに洗う」ことでも、「筆が痛い、痛い」など、子どもの発想は豊かです。

そして、活動を通じ、お互いの作品をみて高めあい、協力して作品を作る姿も微笑ましく思います。

指導をしていく中で難しいと感じる点は、子どもたちへ伝える言葉の難しさです。普段日常の中で使う言葉を、初めて聞く子どもにどのように伝えたら理解しやすいのか、考えながらの授業ですが、教室の指導の際に役立つことばかりです。

私たちがこのような活動ができるのも、学校側の理解があり、常に連携いただけるからだと思います。課題に向けてどのようにしたら取り組みやすいのか話し合うだけでなく、児童に課題があれば話し合いをし、書を通じ、一つでも良いことを探し出せば児童の自信につながると思います。

最後になりますが、幼い頃、書と出逢い、この道で生きることを目標とし続けて20年。今度は私が書を志す子どもたちを一人でも見つけ、育て導くことのできる人になりたいと思います。

書道教育特区

書は日本の美しさ



静岡・伊東市立南小学校

礼儀・作法も 身につく

「書道教育特区」のモデルとなった伊東市立南小学校は現在は「教育課程特例校」として、書道に力を注ぐ。同小の授業を参観した。

「書は日本の美しさです」「書は心の栄養」と書いた2枚の紙が、教室の壁に張り出されている。書道に取り組み同小のモットーだ。

まだ、園児のような幼さを残した1年生もこの教室に入ると、表情が引き締まる。着席して約20秒間、黙想。心を落ち着けてから授業が始まる。

講師は伊東市にある日本書道芸術専門学校で学び、書道師範の資格を持つ松原実生さん。まず、漢数字で「はらい」や「とめ」の基

本を学習する。この日は「六」を書いた。筆の運びを「つま先」「かかと」と足や「毛虫（起筆での穂先の動きの例え）」と動きを連想させて教える。

「上」「ハ」。それぞれの筆遣いに合わせて子どもたちは「つま先」「かかと」「毛虫」と声を出しながら、体で覚えていく。

45分間の授業はすぐに経過、終盤に自分たちが半紙に書いた「六」を掲げながら、それぞれ自己評価したり、友だちの作品を鑑賞したりする。そして、最後は、用具の片づけ。礼儀・作法も自然と身につけていく。

服を墨で汚さないようにと、子どもたちは保育園時代に着ていた上っ張りをまとっているが、集中力がついてきたためか、服を汚す子はほとんどいないという。

年間35時間の授業があり、1年生は「用具の名前を覚えること」から始まり、

「座り方、姿勢、筆の持ち方」「筆の運び方と呼吸」「漢数字の『一』から『十』」「カタカナの『ヤ』『マ』『漢字の『山』『カ』『フ』『川』」を学習する。

2年生になると漢字の「上」「下」「手」「犬」「足」などを学んでいく。

道下幸夫校長は「日本の伝統文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を養うのが目標です。技能を高めるとともに、書き言葉の基礎を学び、表現力を身につけ、美意識や自省心も養えるのではないかと期待する。

子どもたちからも「先生にほめられたことがうれしい。2学期になって書道が好きだと思えるようになった」「とめ、はね、はらいを身につけたら字が上手になった。大人になったら書道の先生になりたい」などの声が上がっている。

◇ 同市の先進的な取り組みは、各方面から注目された。平成18年1月16日に読売新聞社が南小学校取材したのを始め、以後、地元紙や産経新聞、東京新聞、教育関係の新聞、テレビ局などマスコミ各社が同小を取材。北海道、京都、沖縄、滋賀、宮城、埼玉など各地の道府県・市議会、教育委員会、学校関係者も視察に訪れるなど大きな反響を呼んだ。

伝統に新しい要素



書道に親しむきっかけに



「特区」への道のり

伊東市が「特区」認定を受けるきっかけになったのは、平成17年5月、同専門学校を会場に始まった「子ども書道教室」。文部科学省が実施した「放課後子ども教室推進事業」の一環で、市内から65人の子どもが参加した。週1回の講座で、2回目には90人以上が参加した。

予想外の反響に驚いた市教育委員会は同年9月、内閣府に「伊東市書道教育特区」を申請。11月に認定され、翌年の新学期から南小学校で授業を開始した。19年には市立東小学校も「特区」として授業を始めた。特区が認定されるまでは、毛筆の授業は小学3年生以上の「国語科の書写」として

行われていた。制度が変わり、同市の「書道教育特区」は文部科学省により「特区」という特定の地域に限定されずに「全国展開」というかたちで実施され、書道科書道としてそのすそ野を全国に広げることになった。

同市では南、東小学校に続いて、現在は他の8小学校でも、2年生から「書道科」に取り組んでいる。また、静岡県では裾野市や長泉町でも、2年生の「書道科」がスタートし、伊東市を含めると、県内14小学校に広がった。子どもたちに書道との出会いを提供し、この新しい書道科の書道講師を養成、県内14校へ派遣している同専門学校の石橋智子校長は「子どもの字は生命感にあふれています。伝統に新しい要素を加えながら、日本の美しさとして発展すれば、素晴らしいですね」と話している。

一方、那覇市の特区は1年間で終了したが、天妃小学校は「特区時代と実質的な授業内容は変わっておらず、書道教育の芽は順調に育まれている」という。

そんな地域挙げての盛り上がりの中、同小へ進む子どもが多い、市立天妃幼稚園でも、18年から秋に「お習字講演会」を開くようになった。園児に、はしの持ち方を教えながら、筆の持ち方を指導するなど、小さな子ども達の発達に合わせて、身近なことから、書に馴染ませるといった教え方だ。21年は新型インフルエンザの流行で、同園の「お習字講演会」は中止されたが、今後も機会があれば、「お習字講演会」を催したい意向だ。

伊東市で始まった「書道教育特区」は、一滴の水流から、日本の伝統文化の良さを見直す大きな流れへと向かっている。

書道特区の教育的な効果について、学校関係者や保護者らから次のような声が上がっている。

- ① 性格や行動に落ち着きがでてきた。
- ② 礼儀・作法を学び言葉遣いや姿勢がよくなり、あいさつができるようになった。
- ③ 作品を完成するために努力や、集中力、持続力がついた。
- ④ より高い完成度を目指す心が養われ、向上心が生まれた。
- ⑤ 文字が正しく、きれいに書けるようになった。
- ⑥ 日本の伝統を知るようになった。

情らしさ見直そう

宗教学者
山折 哲雄 氏



原稿は手書きで縦に書きま
す。日本語は縦書きにすべきで
す。
20年ほど前からでしょうか、
気が付けば大学の紀
要がほとんど横書き
になっていった。なぜ
そうだったかを考え
るに、戦後、日本語を少しでも
普遍的な世界語に近付けるた
め、ローマ字化推進運動があっ
た。その担い手の一人だった文
化人類学者の梅棹忠夫氏あたり
の考え方がまず社会科学、やが
て人文科学にも及んでいったも
のと思われまます。

五七調生きる縦書き

一昨年、ある教育関係の雑誌
科書くらい。
横書きに反対する理由は二つ
あります。まず、日本語は万葉
集以来の和歌のリズムで成り立
っている。その伝統を受け継い
だ日本の文学はすべて縦書きさ
れてきた。五七調は呼吸のリズ
ム、生命のリズムで、日本人の
生活と文化に深く根を下ろして

著名人6人思い語る

書き手の個性や人柄がにじみ出てくる手書き
文字。パソコン、ワープロ全盛期の今こそ、そ
の素晴らしさが改めて、見直されている。学者
や作家、文化人ら各界で活躍する人たちに、文
字に対する思いを語ってもらった。



日本和装師会会長
市田 ひろみ 氏

海外でも高、評価

にエッセイを書いたのですが、
縦書きの原稿が横書きで組み
てきた。中で引用した北原白秋
の詩がまるで死んでいる。怒り
が爆発しました。抗議してもど
うにもならない。その後、私が
関係する学会の機関誌も横書き
になりました。

第二は明治近代語の成立にか
かわる問題。明治に入って西洋
文明を受け入れ、横書きの文化
を縦書きの日本語に移し換える
ため、当時の知識人たちは大変
な刻苦精励、努力を傾けてきた。
その先人たちの努力の賜物と
して今日の日本語がある。今
簡単に横書きを受け入れるこ
とは、千年続いた日本の文化
と百五十年続いた近代化の過
程を否定し去ってしまうこと
になります。

横書きに反対する理由は二つ
あります。まず、日本語は万葉
集以来の和歌のリズムで成り立
っている。その伝統を受け継い
だ日本の文学はすべて縦書きさ
れてきた。五七調は呼吸のリズ
ム、生命のリズムで、日本人の
生活と文化に深く根を下ろして

書との関連でい
え、筆で書く漢字仮
名まじり文自体、横
書きになじまない。横書きの隆
盛と手書き文字の衰退はリンク
しており、パソコン、インター
ネットの普及が一層拍車をか
けている。一方で伝統的な日
本文化を見直そうという動き
があるが、その矛盾を、今後日
本人はどう克服していくので
しょうか。

めて書道を書くところを見た
と喜んで下さいました。

各国のファーストレディの前
で、書くことに一瞬、緊張を覚
えましたが、私は外国の人にも、
書の美しさを十分に理解して
もらえるという信念があります。
これまで、世界100か国余
りで、着物ショーを開催しまし
たが、必ず、書も一緒に展示し、
着物とともに日本の優れた伝統
文化であることを紹介してきた
からです。海外で書道は非常に
高い評価を受けています。

墨と筆、和紙が織りなす、温
かみのある文字。墨がかすれる
ところは、かすれて、それがま
た美しい。書いているうちに、
自然と心がこもってきます。
だから、書道を通じて、人と
の出会いもあります。沖繩・那



華道家元池坊次期家元
池坊 由紀 氏

「打つ」時代に「書く」価値

私、実は左利きです。父も元
々は左利きですが矯正してい
ます。でも私たちの頃から無理
に矯正するのはよくないとい
う風潮になって、だからいまだに
箸もハサミもペンも左手でしか
持てません。

漢字の筆順は左から右に書く
ようになっていたので、左手で
書くとしても流れが不自然
になる。だから書道は高校の選
択科目で一応は取りましたが、
今では毛筆は芳名録に名前を書
くくらい。もっぱら上手な方の
ものを拝見させていただくの
楽しみにしています。

知り合いの書家の個展などに

うかがうこともありますが、池
坊には小堀遠州をはじめ、いろ
んな方の書状なども多く残され
ていて、それらを身近に見られ
るのは恵まれていると思いま
す。現代のコンピューターで書
かれた文書は単なる情報に過ぎ
ませんが、墨で書かれたものに
はそれだけではない付加価値が
ある。字からその方の性格や雰
囲気まで推察できます。

私がお礼状や挨拶状など、は
がきで出すことが多いですね。
ワープロの字は儀礼的で冷たい
感じがするので、ボールペンに
もせよ必ず手書きで、自分の素
直な気持ちを表すよう心がけて

います。封書ではなくはがきに
するのは、相手が忙しい方だ
と、毎日来るたくさん郵便物
の封を切って開ける手間が大変
だと思つのです。簡略かも知れ
ないけれど相手の負担にならな
いよう、読み捨ててもらっても
いいよう、はがきにします。
はがきや切手は季節に応じた
もの、京都らしいものをいろ
ろ取り揃えて。旅行や出張先で
書くことも多いので、はがきは
必ず持って行きますね。たくさ
んの文字は書けないので、余分
なことは書きません。時候の挨拶
などにはこだわると堅苦しい
例文集のようになってしまう
ので、京の町を見ていて気付
いたことなどを形式張らずに
さり気なく、それでいて季節
感などを出すように心がけて
います。

メールも使います。友人関係
や事務的なやり取りなら、タイ
ムラグがなく、速くて便利です。
でも、そのように手紙も今や「書
く」時代ではなく「打つ」時代
になってしまったからこそ、手
で「書く」という行為の中に含
まれる意味の大きさを改めて感
じさせられます。

で、日本書紀を「漢文」で書く
など、和漢の文字文化も花開き
ました。

遣唐使の粟田真人は則天武后
に謁見した際、「よく経史を讀
み、属文を解し」と評された
ように、中国人も驚くほど、文
字への教養が深かったよう
です。奈良時代には、良質の紙や
墨、筆作りの技術も発達しまし
た。今でも墨痕が光って見える
くらい、鮮やかな文字がたくさ
ん残っています。

不思議なもので、字には書い
た人の教養や、緊張感もひしひ
しと伝わってきます。書くこと
は、単に記録を残したり、伝え
たりすることだけでなく、その

教養や緊張感表れる



奈良県立
橿原考古学研究所長
菅谷 文則 氏

考古学をやっていると、日本
人と文字のかかわりが、とて
も身近に感じられます。木簡や
鏡、刀剣に書かれた文字からも

辺の人たちはその文字が読め、
意味も理解できたと思います。
5世紀の辛亥年(471年)
に作られたとみられる埼玉県・

手書きの素晴らしさ見直

著名人6人思い語る

書き手の個性や人柄がにじみ出てくる手書き文字。パソコン、ワープロ全盛期の今こそ、その素晴らしさが改めて、見直されている。学者や作家、文化人ら各界で活躍する人たちに、文字に対する思いを語ってもらった。



日本和装師会会長
市田 ひろみ氏

海外でも高い評価

ふるざと
あかと
きいろと
しろの
もぎいくのような
雲があった
遠い日

日、会場となったザ・ウィンザーホテル洞爺の舞台で、プッシュ・前米大統領夫人のローラさん、ブラウン・英首相夫人のサラさん、メドベージェフ・ロシア大統領夫人のステトラーナさんらを前に、自作の「ふるざと」という詩を書きました。

2008年7月7日。北海道洞爺湖サミットが開催された当日、会場となったザ・ウィンザーホテル洞爺の舞台で、プッシュ・前米大統領夫人のローラさん、ブラウン・英首相夫人のサラさん、メドベージェフ・ロシア大統領夫人のステトラーナさんらを前に、自作の「ふるざと」という詩を書きました。

めて書道を書くところを見た」と喜んで下さいました。各国のファーストレディの前で、書くことに一瞬、緊張を覚えましたが、私は外国の人にも、書道の美しさを十分に理解してもらえたいという信念があります。

これまで、世界100か国余りで、着物ショーを開催しましたが、必ずしも書道に展示し、着物とともに日本の優れた伝統文化であることを紹介してきたからです。海外で書道は非常に高い評価を受けています。

墨と筆、和紙が織りなす、温かみのある文字。墨がかすれるところは、かすれて、それがまた美しい。書いているうちに、自然と心がこもってきます。

だから、書道を通じて、人との出会いもあります。沖繩・那覇で個展を開いた時、お年寄りの女性が足を運んでくれて、新聞広告紙の裏側に、私の作品を一生懸命に書き写してくれました。「本になるのかね。本になっても、買えないから、写して帰る」。そんなやりとりがあった。作品を本にするとき、出版社の方に相談して、できるだけ安い値段にしたこともあります。

聖子氏

原稿は全部一字一字、手で書いています。機械は使えないし、使うと気持ちがうまく伝わらないような、ヨソヨソしい感じがするのです。私が作家デビューした頃は、皆さんナマの字でした。お年を召した先生方なんか、教養がありできちんとした書法にのっとった字を書いておられるのに、「読めない」とよく編集者を泣かせていました。

柔らかかさある続け字

ソフトな連者な続け字を書く人が少なくなりました。じつていうと、柔らかくていい化をもっと大切にしたい方が多い。日本人は漢字から平仮名、

文字の崩し方というのはみんなが知っていないといけないものです。千年の昔から一定の決まりがあり、絶対、自分流に勝手に崩してはいけません。今はそれを学校で教えてくれませんが、まず正形を覚える。知らないなら、崩さずきちり書く方がいい。固くなるなら平仮名にすればいいんです。

25歳の頃に結婚を患い、30歳まで5年間、大阪府貝塚市のサトリウムに入院していました。ところが、この塾に通って、元々、書道が好きで、

退院後、学習塾の先生をし、午前中は小説を書いていました。ところが、この塾に通って、元々、書道が好きで、



小説家
難波 利三氏

気持ち伝わってくる

作家の看板を掲げました。もちろん、小説を書きたいという気持ちも強かったです……。以来、ずっと、言葉や文章にかかわっています。当初はモンブラン社の太い万年筆を持って、升目に向かっていました。書き損じても文字を消すことができないので、応募する原稿の最後の仕上げは、升目の切り張りです。今じゃ考えられないけど、まさに、手作業でした。

教養や緊張感表れる

考古学をやっていると、日本人と文字とのかわりが、とても身近に感じられます。木簡や鏡刀剣に書かれた文字からも、その時代の精神や息吹が伝わってきます。

おそろく、日本人が初めて、漢字に接したのは、弥生時代前期の紀元前2世紀頃に中国から入ってきた鏡に記された文字でしょう。西暦57年には、匈奴(今の福岡県)の王が中国・漢の光武帝から「漢委奴国王」と記した金印を授かり、奴国王の周



奈良県立
橿原考古学研究所長
菅谷 文則氏

辺の人たちはその文字が読め、意味も理解できたと思います。5世紀の辛亥年(471年)に作られたとみられる埼玉県・稲荷山古墳出土の「金錯銘鉄剣」には115文字、熊本県・江田船山古墳出土の大刀にも75文字が刻まれ、この頃になると、列島の人々の識字率は相当、高くなっていったと推定できます。

文書で地方の役所などに指示を送る行政の仕組みが発達すると、さらに識字率は高まります。奈良時代には万葉集を「和語」

現代のパソコンは、誰が書いても同じ形の字が印刷され、個性がありません。何度も書き直せるので、緊張感のない文章に出会うこともあります。そんな時代だからこそ、手書きの大切さを改めて、実感します。

で、日本書紀を「漢文」で書くなど、和漢の文字文化も花開きました。遣唐使の粟田真人は則天武后に謁見した際、「よく経史を読み、属文を解し」と評されたように、中国人も驚くほど、文字への教養が深かったようです。奈良時代には、良質の紙や墨、筆作りの技術も発達しました。今でも墨痕が光って見えるくらい、鮮やかな文字がたくさん残っています。

くくらしい。もっぱら上手な方のものを拝見させていただくのを楽しみにしています。

ワープロの字は儀礼的で冷たい感じがするので、ボールペンにせよ必ず手書きで、自分の素直な気持ちを表すよう心がけて

になってしまったからこそ、手で「書く」という行為の中に含まれる意味の大きさを改めて感じさせられます。

手書きの素晴らし



日本和装師会会長
市田 ひろみ

海外でも高い評価

ふるさと
あかと
きいろと
しろの
もぎくのような
雲があった
遠い日

2008年7月7日。北海道洞爺湖サミットが開催された当日、会場となったザ・ウィンザーホテル洞爺の舞台上、ブッシュ・前米大統領夫人のローラさん、ブラウン・英首相夫人のサラさん、メドベージェフ・ロシア大統領夫人のスペトラーナさんらを前に、自作の「ふるさと」という詩を書きました。

縦1・5枚、横5枚の大きな黒谷和紙のパネルに、一気に書いた詩を見て、ローラさんは「初

海外でも書道は非常に高い評価を受けています。墨と筆、和紙が織りなす、温かみのある文字。墨がかすれるところは、かすれて、それがまた美しい。書いているうちに、自然と心がもってこみます。だから、書道を通じて、人との出会いもあります。沖縄・那覇で個展を開いた時、お年寄りの女性が足を運んでくれて、新聞広告紙の裏側に、私の作品を一生懸命に書き写してくれました。一本になるのかね。本になっても、買えないから、写して帰る。そんなやりとりがあった。作品を本にするとき、出版社の方に相談して、できるだけ安い値段にしたこともあります。心のふれあい。温かい手書きの文字には、そんな温もりがあふれています。

教養や緊張感表れる

考古学をやっていると、日本人と文字のかかわりが、とても身近に感じられます。木簡や鏡・刀剣に書かれた文字からも、その時代の精神や息吹が伝わってきます。

おそろく、日本人が初めて、漢字に接したのは、弥生時代前期の紀元前2世紀頃に中国から入ってきた鏡に記された文字でしょう。西暦57年には、奴国(今の福岡県)の王が中国・漢の光武帝から「漢委奴国王」と記した金印を授かり、奴国王の周

辺の人たちはその文字が読め、意味も理解できたと思います。5世紀の辛亥年(471年)に作られたとみられる埼玉県・稲荷山古墳出土の「金錯銘鉄剣」には115文字、熊本県・江田船山古墳出土の大刀にも75文字が刻まれ、この頃になると、列島の人々の識字率は相当、高くなっていたと推定できます。文書で地方の役所などに指示を送る行政の仕組みが発達すると、さらに識字率は高まります。奈良時代には万葉集を「和語」

現代のパソコンは、誰が書いても同じ形の字が印刷され、個性がありません。何度も書き直せるので、緊張感のない文章に会おうこともありません。そんな時代だからこそ、手書きの大切さを改めて、実感します。

作家 田辺 聖子 氏



(写真は読売新聞提供)

原稿は全部一字一字、手で書いています。機械は使えないし、使うと気持ちが悪く伝わらないような、ヨソヨソしい感じがするのです。私が作家デビューした頃は、皆さんナマの字でした。お年を召した先生方なんか、教養があまりできちんとした書法にのっとった字を書いておられるのに、「読めない」とよく編集者を泣かせていました。そういう達者な続け字を書く人が少なくなりましてね。私などは過渡期の人間で、女専(女子専門学校)に入った頃は、まだ習字が正課としてあ

柔らかさある続け字

じつていると、柔らかくていいなあと思います。内容まで優しく思えてくる。

漢字に平仮名を交えた書体を見つけた日本人の美意識は素晴らしい。ビジネス文書は別として、個人的な手紙だと、人から人への気持ち、息づかいが反映するような、ちょっとした文字のお遊びが見た目を和やかにするし、その人の心持ちが響いてくる。だんだん、そうしたお遊び、楽しみがなくなってきましたね。

文字の崩し方というものはみんなが知っているといけません

文字の崩し方というものはみんなが知っているといけません。千年の昔から一定の決まりがあり、絶対、自分流に勝手に崩してはいけない。今はそれを学校で教えてくれませんが、まず正形を覚える。知らないなら、崩さずきちんとして書く方がいい。固くなるなら平仮名にすればいいんです。

便利かも知れませんが、手で書く手紙文化をもっと大切にしたい。日本人は漢字から平仮名、片仮名を発明しました。漢字、平仮名、片仮名、この三通りの文字を使ったら、怒った時の怒り方、うれしい時の喜び方、いろんな感情をいろんな風に相手に伝えることができる。人間は何のために長く生きていくかというと、いろんなお遊びの仕方を考えて、面白がるネタを増やしていくため。それが文明の進歩というものではないでしょうか。



小説家 難波 利三 氏

気持ち伝わってくる

25歳の頃に結核を患い、30歳まで5年間、大阪府貝塚市のサナトリウムに入院してました。元々、書くことが好きでしたが、入院の退屈を紛らわしたという思いもあって、小説を書き始めました。

「夏の終わる日」という作品で、これが「小説新潮」で入選しました。賞金が当時のお金で5000円。今なら10万円くらい値打ちですかね。あの時は「こんな、ええ商売があるのか」と驚きました。だから、私が小説を始めたい志はあまり高くない。(笑)

退院後、学習塾の先生をし、午前中は小説を書いていました。ところが、この塾に通ってくる生徒のレベルが高い。物理の問題などを質問されると、私はたじろぎになってしまふ。すぐに答えられないから、「明日までにやる」と言って、その場を誤魔化して、よく似た問題の例題集を見ながら、四苦八苦して解く。

ある日、生徒に言われました。「この前、先生に教えてもらった答え、間違っていました」と。「もう、塾を続けるのは怖い」と、七年間続けた塾をたたんで

作家の看板を掲げました。もちろん、小説を書きたいという気持ちも強かったですが……。

以来、ずっと、言葉や文章にかかわっています。当初はモンブラン社の太い万年筆を持って、升目に向かっていました。書き損じても文字を消すことができないので、応募する原稿の最後の仕上げは、升目の切り張りですよ。今じゃ考えられないけど、まさに、手作業でした。

最近、小説の選考委員もさせてもらっていますが、手書きの作品を見かける機会が少なくなりました。ほとんどが、パソコンやワープロで処理された原稿ですよ。それだけに、肉筆で書かれた原稿に出会ったとき、相手の気持ちが伝わってくるように思える。だから、読む側も丁寧に読もうという気持ちになります。これが手書きの良さですね。

私も最近ではワープロやパソコンを使うようになりましたが、原点を忘れないようにという気持ちで日記だけは、モンブランの万年筆で書き続けています。

楽しく元気よく



第5回 手書き文字ばんざい!

「第5回手書き文字ばんざい!」が10月25日、大阪市中央区のOMMビル展示ホールで開催されました。新型インフルエンザの流行で、参加者が少なくなるのではないかと心配しましたが、みんな元気に集まって、気持ちよく手書き文字に挑みました。



「上手に書けたね」会話も弾む

平成17年に施行された文字・活字文化振興法で、10月27日が「文字・活字文化の日」に制定されたのを受けて、本院では毎年、「手書き文字ばんざい!」大会を実施しています。本院副理事長の今村桂山先生による大作の揮毫で、大会はスタート。約350人の参加者が見守る中、21年のテーマである「自然」を迫力のある線で力強く「気呵成に書き上げ、拍手喝采に包まれました。揮毫

作品は正面のパネルに展示されました。続いて、主催者を代表して中村仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長があいさつ。「新聞と書は文字を大切にすること、兄弟のようなもの。今回はエコバッグに文字を書いて自分のエコバッグを作りますが、自然環境を守る一助にもなる良い企画です」と、この大会に込めた熱い思いを話して下さいました。



この後、主催者側の幹部の紹介があり、いよいよ、手書き文字の時間に。参加者は「空」「雲」「星」「山」「花」「水」などの中から、学年ごとに文字を選び、好きな書体で作品に取り組みました。友達同士で「ここは上手に書けたね」「もっと元気よく書こう」など、楽しい会話も弾みました。色紙に書いた作品は一枚を会場内のパネルに貼り付け、一枚は家に持ち帰り、もう一枚は、今回初めて実施される外部での展示作品として本院で預かりました。この作品は11月13〜15日の3日間、NHK大阪放送局一階アトリウムで展示されました。



大作揮毫作品(今村桂山・本院副理事長)



- 【主催】 社団法人日本書芸院、読売新聞社
- 【後援】 文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、NHK大阪放送局、読売テレビ
- 【協賛】 あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(五十音順)

気持ち込めて



手書き文字

書きの文字
写・書道ってすばらしい
れいに美しく
字を書こう
の美しさは文化のバロメーター



参加者の声

大阪市・茨田西小2年
井島弘雅くん(7)「野球が好きなので、エコバッグに甲子園と書いた。クラブを入れるのに使う」

兵庫県加古川市・平岡小3年 西岡志穂さん(9)「山の真ん中の線が、うまく書けたと褒められてうれしかった」

奈良県橿原市・畝傍東小4年 福西奈瑠さん(10)「寄せ書きコーナーは、普段と違って、大きな白紙に、自由に書いて楽しかった」

大阪市・帝塚山学院中1年 大西杏奈さん(13)「エコバッグにクレヨンで『星に願いを』の歌詞を書いた。仕上がりが良くてうれしい」

大阪府富田林市・主婦 山下陽子さん(44)「子どもは字が好きで習っていますが、家ではなかなかこうした機会が持てない。楽しめました」

※「参加者の声」は平成21年10月27日付読売新聞朝刊から。年齢、学年、学校名は掲載当時。

自由に書けた／仕上がり良くてうれしい

また、今回はオリジナルなエコバッグ作りにも挑戦。自分の好きな文字や言葉を書き込み、自分だけのエコバッグを作りました。絵の具、フェルトペン、クレヨンなどを使い、生き生きとした文字が目を引きました。

エコバッグを書き終った人は寄せ書きコーナーへ行き、大きなパネルの上にあがり自分の好きな文字や言葉を自由に書きます。

次に「第4回全日本小学生・中学生書道紙上展」および「第14回全日本高校・大学生書道展」優秀者による席上揮毫が行われました。

小学1年生から中学3年生までの9人(当日は1人欠席)と、高校生2人と大学生2人の計12人が会場中央の特設ステージで書きました。一点一画に力を込めて書いている姿を周りの人たちは息をのんで見入っていました。書き終えると称賛の



NHK大阪放送局での展示

大きな拍手が起りました。これらの作品は会場内の大きなパネルに貼られ、色紙と同様、NHK大阪放送局一階アトリウムでも展示されました。

最後に本院理事長・井茂圭洞先生から閉会のあいさつがあり、「席上揮毫は堂々とした作品で、たいへん良く書いていました。また、手書き文字は意思を伝達するのに有効な手段であり、同じ書くのであれば美しく書きたいものです」と締めくくっていただきました。



平成21年 全国シルバー書道展



作品に人柄にじむ

平成21年「全国シルバー書道展」は、大阪、京都、兵庫、広島など西日本の2府7県で、盛大に開催された。大阪展（6月30日～7月5日）には、前年を数十点上回る1610点が出品され、2868人が入場した。広島展（1月6、7日）は2日間の開催にもかかわらず、2720人が訪れ、107歳の女性が出品するなど、各地で話題を呼んだ。



⑤男性最高齢・三浦翠堂さんの作品
⑥女性最高齢・穂積とみゑさんの作品

三浦さんの作品は聖書の言葉をしたためた。「十字架」や「神の力」という文字は筆に勢いがあり、力強い。凛とした筆致だ。穂積さんの作品は「翔」。鑑賞していた人たちから「筆が

10月24、25日に神戸市の「兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー」で催された兵庫展の会場を訪ねた。芸術、スポーツの秋を迎え、朝早くから、出品者や書道ファン、家族連れらでにぎわっていた。

出品点数は「漢字」「仮名」「前衛」「篆刻」計791点（男性138点、女性653点）。男性の最高齢は102歳の三浦翠堂さん、女性は99歳の穂積とみゑさん。2階展示室入り口わきに2人の力作が並んでいた。

動くとは「このことだ」と驚きの声が上がっていた。ほかに年配の人たちが「千載一遇」「明鏡止水」「青雲之志」など自身の好きな言葉を書き、人柄をのびせせるような作品がずらりと展示されていた。入場者らは「生涯学習にぴったり」「仲間がいるので張り合いがある」「頭を使って、手を動かして。健康にいい」と口々に話していた。

「心をつなぐファミリー展」

家族、仲間と 気持ち一つに

1階展示室では第7回「心をつなぐファミリー展」を同時に開催。家族や学校、塾、高齢者施設の仲間たちが「ファミリー」のように、一つになった気持ちで、思い思いの作品を出品。3703点がそろい、圧巻だ。力作には「ファミリー賞」「ユニーク賞」「ほのぼの賞」「なかよし賞」などが贈られた。



西宮市の田中優大君(10)は同じジャンションに住む人たちと一緒に書道習っており、「志」と話していた。という文字を書いた。「書を書く」と、気持ちがますますと



回数	開催地	開催期間	会場
第21回	広島展	1月6、7日	広島県民文化センター
第22回	三重展	2月25日～28日	津リージョンプラザ
第22回	京都展	3月6日～8日	京都文化博物館
第22回	滋賀展	4月24日～26日	大津市歴史博物館
第21回	奈良展	5月22日～24日	奈良県文化会館
第22回	大阪展	6月30日～7月5日	大阪市立美術館
第22回	岡山展	9月25日～28日	天満屋岡山店
第22回	兵庫展	10月24、25日	兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
第15回	和歌山展	12月10日～13日	和歌山県民文化会館

第14回 全日本高校・大学生書道展



学生書道のグランプリ「第14回全日本高校・大学生書道展」(平成21年)は漢字、かな、調和体(漢字、かな交じり)、篆刻の4部門から過去最高の計1万2501点の応募があった。最高賞となる全日本高校・大学生書道展大賞に51点が選ばれたのをはじめ、同展賞348点、優秀賞810点が決まった。いずれも、書芸術の継承と発展を担う若い世代の意欲作で、上位三賞受賞作品計1209点が平成21年8月25日から30日まで大阪市立美術館(大阪市天王寺区)で展示された。また、展示会最終日の30日には大阪国際交流センター(同)で授賞式が催された。



過去最高 1万2501点の応募



若い世代の意欲作そろそろ

【審査員】(書家は50音順)

読売書法会 常任総務 新井光風
 本院 理事長 井茂圭洞
 本院 副理事長 今村桂山
 " " " 杭迫柏樹
 " " " 黒田賢一
 " " " 高木厚人
 読売書法会 常任理事 樽本樹郎
 本院 副理事長 真神颯堂
 読売新聞東京本社 執行役員事業局長 久保博
 " " " 窪田邦倫
 大阪本社 事業局長

日時 平成21年8月5日(水)
 会場 マイドームおおさか 1階

【審査結果】

個人賞
 全日本高校・大学生書道展大賞 51点
 全日本高校・大学生書道展賞 348点
 優秀賞 810点
 準優秀作品 1910点
 優良作品 9382点

団体賞
 高等学校の部
 最優秀校 大分高等学校(大分) 9回目
 優秀校 東福岡高等学校(福岡)
 第3位 熊本県立第一高等学校(熊本)
 第4位 埼玉県立松山女子高等学校(埼玉)
 第5位 東京学館新潟高等学校(新潟)
 第6位 奈良県立桜井高等学校(奈良)
 第7位 千葉日本大学第一高等学校(千葉)
 第8位 明誠学院高等学校(岡山)
 第9位 岩手県立盛岡第四高等学校(岩手)
 第10位 鹿児島県立伊集院高等学校(鹿児島)

大学の部
 最優秀校 京都橘大学(京都) 7年連続7回目
 優秀校 奈良教育大学(奈良)
 第3位 大東文化大学(東京)
 第4位 岐阜女子大学(岐阜)
 第5位 花園大学(京都)
 第6位 四国大学(徳島)
 第7位 京都教育大学(京都)
 第8位 福岡大学(福岡)
 第9位 岩手大学(岩手)
 第10位 中京大学(愛知)



出品点数 1万2501点

○種別

- 第1種 6439点(2×8、2.6×6、4×4)
- 第2種 5206点(全紙、半切二幅、聯落)
- 第3種 856点(篆刻)

○多数出品都道府県

(上位10府県。北海道から沖縄まで)
(全都道府県より出品がありました)

- 大分県 1266点
- 福岡県 1173点
- 京都府 888点
- 熊本県 841点
- 大阪府 754点
- 岩手県 709点
- 新潟県 609点
- 鹿児島県 571点
- 埼玉県 498点
- 滋賀県 479点



○参加団体

- 高校 6327点
- 短大・大学 2005点
- 関東・中部会派 338点
- 専門学校・個人出品等 396点
- 本院会派 3435点

第15回 全日本高校・大学生書道展(予告)

【作品受付】平成22年6月30日(水)締切 ※同日消印有効
 必要資料をご請求の上、作品とともにお送り下さい。
 【会期】平成22年8月24日(火)～29日(日)
 【会場】大阪市立美術館 地下展覧会室 全室(天王寺公園内)
 【主催】社団法人日本書芸院・読売新聞社
 【後援】文部科学省(申請予定)
 ◇陳列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します。(約1300点)
 ◇授賞式 展示会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。
 ■作品応募要項の詳細はホームページ
 (http://www.nihonshogeiin.or.jp/)でご確認下さい。

第4回 全日本小学生・中学生書道紙上展



小、中学生の書写書道の技術向上を図り、書くことを通じて豊かな心を養うことを目的に、本院と読売新聞社が平成18年に創設した「全日本小学生・中学生書道紙上展」の第4回審査(21年)が行われた。今回は、全国から1万7225点の応募があり、各学年ごとに「ベスト100」作品が選ばれた。力いっぱい堂々と書いた秀作が多く、学年によっては選出数が100を超えた。小学校6学年、中学校3学年で計947人が受賞し、「ベスト100認定証」などが贈られた。

出品点数 1万7225点

○学年別	
小学1年生	830点
小学2年生	1639点
小学3年生	2409点
小学4年生	2732点
小学5年生	2791点
小学6年生	2629点
中学1年生	1594点
中学2年生	1506点
中学3年生	1095点
○団体別	
小学校	15点
中学校	169点
本院会派	1万2558点
書塾	3836点
その他	647点

全国から応募1万7225点 力いっぱい堂々と



「ベスト100」認定証(A3判、30×42cm)

【審査】
 日時 平成21年9月28日(月)
 会場 OMMビル2階 会議室
 審査員 本院理事長
 本院副理事長
 " " " "
 読売新聞大阪本社 事業局長
 窪田邦倫 高木厚人 真神颯堂 今村桂山 黒田賢一 杭泊柏樹 井茂圭洞

【選考内容及び賞】
 一、全作品から各学年優秀作「ベスト100」を選び認定証を授与。
 二、図書カードは各学年「ベスト100」及び成績優秀者に贈る。
 ただし、団体出品の場合は代表者を通じて送付。

【成績発表】
 11月16日(月)。読売新聞紙上及び本院ホームページにて発表、各代表者に成績通知を郵送。
 ただし、団体出品の場合は代表者を通じて送付。

詳細はホームページで

「全日本高校・大学生書道展」「全日本小学生・中学生書道紙上展」の今年の作品応募要項や、昨年の詳しい結果報告は、下記ホームページをご覧ください。
 「全国シルバー書道展」
 「全日本高校・大学生書道展」
 「全日本小学生・中学生書道紙上展」事務局
 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
 OMMビル7階 (社)日本書芸院内
 電話 06-6945-4501
 F A X 06-6945-4505
 Eメール info@nihonshogeiin.or.jp

<http://www.nihonshogeiin.or.jp/>

第5回 全日本小学生・中学生書道紙上展(予告)

【作品受付】平成22年8月31日(火)締切 ※同日消印有効
 【出品資格】小学校・中学校の児童・生徒
 (平成22年8月31日 作品受付締切時)
 【部門】小学1年生の部から中学3年生の部まで、各学年を部とします(9部門)
 【主催】社団法人日本書芸院・読売新聞社
 【後援】文部科学省(申請予定)
 ■作品応募要項の詳細はホームページでご確認下さい。

伝統と創意

社団法人 日本書芸院

■ 展覧会

＜日本書芸院展＞
 日本書芸院会員相互の共励琢磨による「書」の本質的研究を通して、後進の育成に尽力しています。
 ●日本書芸院展(役員展) 会場：大阪国際会議場(大阪市北区)
 ●日本書芸院展(公募展・会員展) 会場：大阪市立美術館(大阪市天王寺区)
 ●特別企画展・海外展
 ＜その他の企画展＞
 小学生からシルバー世代まで、全世代を網羅する書道展を開催して、書の啓蒙と普及、我が国文化の継承・振興・発展のために活動しています。
 ●全日本小学生・中学生書道紙上展 読売新聞紙上
 ●全日本高校・大学生書道展 会場：大阪市立美術館(大阪市天王寺区)
 ●全国シルバー書道展 近畿2府4県および三重・岡山・広島県で開催

■ 沿革と概要

昭和21年(1946年)11月創立
 昭和22年(1947年)5月、社団法人の認可を受ける
 平成18年(2006年)創立60周年を迎え、様々な記念事業を開催
 ■現在、北海道から沖縄まで全国に約1万6千人を超える会員を擁する我が国屈指の書道団体であり、会員の中から、文化勲章受章者2名(故 村上三島、杉岡華邨)をはじめ日本芸術院会員、文化功労者、日本芸術院賞受賞者、日展や読売書法展など全国規模の大公募展の役員・審査員を務める著名な書道芸術家を多数輩出しています。
 ■毎年、公募を含めた書展や企画展、各種の講習会・講演会を開催しています。

■ 講習会

●記念講演会
 ●教養講座
 ●「手書き文字ばんざい！」
 (文字・活字文化の日記念イベント)

■ 出版

●作品集・図録
 ●会報・会員名簿
 ●研究誌・記念誌
 ●広報紙